

まんだら通信

第234号 (通巻269号)

平成27年12月 西暦2015年 佛暦2581年 皇紀2675年

安房国八十八ヶ所 第一番札所
295-0103 千葉県南房総市白浜町滝口1084
真言宗智山派 天神山 紫雲寺 高橋 龍渉
郵便振替 00120-2-43163 紫雲寺
TEL0470-38-4740/FAX 0470-30-5040
<http://www.shiunji.org/>
Mail post@shiunji.org

不便だけれど 不幸ではない

百五十年前に開国して以来、西洋を見本に追いつけ追い越せと、力を合わせて働き、気付いたら、今では世界一のお金持ちになっていました。

「いや、世界一の借金国って聞いたけど」という人がいるかと思えます。お金の話は苦手の私ですから、間違っているかも知れないのですが。

海外に持っている日本の資産は、いつも世界トップレベルと聞きました。

私たちが国の借金といっているのは、政府が発行する国債のことですね。「国債という借

用証書をだれかに買ってもらったこと」だと思えます。日本の場合は日本国民が買ったのが大部分だそうです。

これは、お父さんがお母さんにお金を借りたと同じですから、お金を返しても、家の中で行ったり来たりするだけで、よそには関係ないということですよ。

豊かな国力のお陰で、平均寿命も女性87歳、男性81歳と、これも世界一だそうなんです。

みんなが長生きになったため、認知症も増え続け、10年後には700万人を超えて、10人にふたりの割合になるといわれます。

私も既に80過ぎ。いつ、そうなってもおかしくありませんし、これを読んでいるあなたのことかも知れません。

私のことと言うと、普段パソコンで書き物をしているためあつて、漢字を見事なほどに書けなくなりました。朝、食べたおかずが思い出せないなど頻繁ですし、道で会った知り合いの顔は分かって、名前がどうしても口に出ず失礼することもあります。

ご法事に行ったご老僧のお経がやたらに長いので「御前さま、お経が長いのでは」とお檀家がささやいたら「終わりが分からなくて、わしも困ってるんだよ」と仰ったと言う話もあります。

みんなと並んで走っていて、気付いたら先頭にいた、ということ、今までと違い、世界に見本はありませんが、自分たちで解決しなければなりません。

ある日、認知症と診断されると、まるで人間として価値がなくなつたように、自分も周りも思い込んでしまいがちです。けれども、今まで十のことが出来たけれども、半分ぐらいは出来るということ、病気のなから、恥

ずかしいとか悲観することではないはず。標題の『不便だけれど、不幸ではない』は、認知症を公表して全国講演やホームページ(だいたいぶネット)で活躍している佐藤雅彦さんの言葉です。

12月1日の記事に「失った機能を悩んだり、嘆いたりするのはなく、残された自分の能力を信じましょう。認知症になっても張り合いのある暮らしを送ることが出来ます。認知症になつたからこそ他人を気にせずに、他人と比べることなく、自分の好きなことに時間を使いましょう。」と書いておられます。

島根県出雲市で、精神科のお医者さんが経営する『小山のおうち』という、徘徊や暴力を繰り返す、重い認知症の人たちのためのデイケア施設があるそうです。気長に待つて文章を書いてもらおうと、一番多いのが「叱られるのが一番つらい。」ということだそうです。家族は叱る気持ちはなくて「また失敗したでしょう」とか、「また忘れたの?」と、教える気持ちで言います。ご本人は自分の本当の気持ちを分かってくれないから、悪循環の元になっているということですよ。

静岡県富士宮市では、市民みんなで見守り活動をしていそうです。色々の事業所で、働きたい認知症の人を受け入れ、ある集まりは富士登山と一緒にし、別のグループは散歩に誘い、家から出られない人には訪ねて行って、菓子の飲み忘れをチェックしたり、話し相手になったりします。

今では、市民みんなが認知症の人を憶えてしまつて、たとえ帰り道が分からなくなつても、家まで笑顔で送り届けてくれるので、徘徊も出来ないのだとか。

先日の房日新聞に、南房総市でも認知症の人にも加わつて、住みやすい地域にするための仕掛け作りを考へるという記事がありました。大事なことは、認知症であつてもそうでなくても、その土地の一人として役割を担いあつて暮らせる世の中にするのではないのでしょうか。

『真珠湾』から七十五年

臨時ニュースがマス。大本営陸海軍部、12月8日午前6時発表。

帝国陸海軍ハ今八日未明、西太平洋ニ於イテアメリカ・イギリス軍ト戦闘状態ニ入レリ。というNHKニュースを直接耳にした人は、今ではごく少なくなりました。日本とアメリカが戦争をしたことさえ知らない人が、三割近くもいるということに、今昔の思いしきりです。

この太平洋戦争は、軍民合わせて300万人、都市や沖繩はすべて焼け野原という、見事なまでの敗戦で終わりました。

いつ、どの時点で戦争を終わらせるかという青写真もなしに、大國アメリカに戦いを仕掛けた無謀を責める声は今でも多く聞かれます。

ドイツも含めた当時の白人國家は、日本を追い落とすために共同して蒋介石の國民黨に肩入れし、一刻も早く中国との戦いを終わらせたい日本の思惑に反して、広大な中国の奥へ奥へ、泥沼のような戦いを強いられていました。

更に『ABC包圍網』で、ゴム、錫、石油など、日本にとっては血液のような資源の禁輸を実行しました。大方の日本人は真綿で首を絞められるような、この上ない重苦しい気持ちだつたと思います。

そういう時、真珠湾奇襲攻撃が成功したというニュースに日本中が沸き返つたのは、寧ろ当たり前だつたのではないのでしょうか。

あれから七十五年、「他人の家に土足で踏み込んだ日本」を一方的に責める人たちに「あなたは、どうすべきだつたと思いませんか。とお聞きしたい。人間のすることには、プラスとマイナスがあります。「土足で踏み込んだ」マイナスはありながら、両方を天秤にかければ、日本が立ち上がった結果、戦争には敗けたけれども、アジア・アフリカ・中近東など、有色人種の国々はみんな独立することが出来ました。今、「日本が好き」という人たちが世界中に沢山います。

えー、噺家にもいろいろな人がいるんですが、私も含めて、売れない噺家っていうのは、決まって怠け者ですね。

面倒くさがりやとでもいうんですか、大変な無精者です。それでも、妙に気が合いますので、よく安い縄のれんなんかで飲んでおります。先日も、たまたま集まった三人で飲んでいまして、忘年会でもやろうということになりましたね。

「どこでやるのか」、「たまには後輩の真打でも呼んで、いびつてやろうか」、「師匠を呼んでさ、ご祝儀なんかいたしてくか」とか盛り上がったんですが、「誰がどうやって連絡しようか」という話になって、結局、みんな「面倒くせえから、やめよう」ということになりましたけど。人間、やる気がないってことは、よくないもので……。

今日は、ある喫茶店で中学校時代の同級生から聞いた話です。たまたま、先輩の落語会に横浜のにぎわい座という寄席に出かけましたら、偶然、入口でばったり会ったんです。彼を仮に、高橋雅夫君とでもしておきましょうか。

高橋君、いまはこの寄席の近所のマンションの管理人を真面目にやっつて、細々ながら暮らしているようなのですが、聞けば、五年前までは、それはそれは荒れた生活を送っていたそうです。

高橋君、中学を出て、私とちがつて家が裕福だったものから、私立の高校、大学と順調に進み、大学卒業後は大手の印刷会社の営業部に勤めていたそうです。ところが、いまから十年前、五十代になった頃、早期退職という名の肩たたきがあったのを機に、もらった割り増しの退職金で小さな印刷会社をはじめました。ところが、やはり、印刷という仕事がいけなかったのか、折からのITブームで、あつという間に倒産してしまつたそうです。そうですよね。いま、パソコンでなんでもできますからね。名刺だつて、年賀状だつて、印刷屋さんはいりませんからね。

それからというものが、高橋君、働く意欲を失い、毎朝、近くのコンビニに行つて、スポーツ新聞を

読みながら、朝からワンカップの日本酒をあおる始末。当然、生活に困りますから、奥さんとケンカです。幸い、ひとり息子は大学を出て、もう独立して働いていますので、よかつたのですが、夫婦仲はこじれます。

しばらくは、奥さんがパートで働いていましたが、そのうち、とうとう離婚してしまつた。「なに、言つてやんでえ、どこへでも行きやがれ!」。まさに、やけ酒の毎日を送つていたようです。

居酒屋で暴れて、警察の留置場に放り込まれたこともあつたといひますから、困つたものですね。噂を耳にした息子が訪ねてきても、聞く耳も待ちません。息子も、あまりにもひどい父親の姿に、思わず「死ね!」と叫んだと言いますから、よほどひどかつたのではないでしょうが。

「それで、どうやって立ち直つたんだよ」
私は、高橋君に尋ねました。すると、うつすら目に涙を浮かべながら、私にこんな話をしてくれました。

ある日曜日、いつものように、朝から酒を飲み、酒が足りなくなつたので、近所のコンビニに買いに行こうとして、ふらふらと昼下がりの道を歩いていたら、向こうから、ボーイスカウトの制服を着た子供が二人、歩いてきたということです。

酔つ払つてゐる高橋君、その時、咄嗟に、かつて自分がボーイスカウトだつたことを思い出したのです。そして、急に立ち止まると、歩いて来る二人の少年に向かつて、ヨロヨロしながらも、敬礼をしたのです。

すると、近くまでやつてきていた少年たちも立ち止まり、スツと背筋を伸ばすと、酔つ払いのおじさんに敬礼をして、「失礼します」と言つて、通り過ぎていつたそうです。高橋君は、酒を買うのをやめ、家に戻つて、棚の奥にしまつてあつた子供時代の写真アルバムを取り出しました。そして、アルバムをめくつてみると、高橋君のボーイスカウト時代の写真が出てきました。

(ボーイスカウトかあ、懐かしいなあ……)
高橋君は、両親の知り合いに誘われて、小学校一年生の時にカブスカウトに入つていたことを思い出したのです。

(そうだ、夏休みに毛布を二つ折りにしたものを縫つてもらつて寝袋にして、校庭でみんな寝たなあ。はじめての外泊。夜空を見ながら、友だちといつぱい話したよなあ……)
すると、突然、ボーイスカウト時代に口癖のようにして覚えていた「十二の掟」が口をついで出たのです。

一、スカウトは誠実である。二、スカウトは忠節を尽くす。三、スカウトは人の力になる。四、スカウトは友誼に厚い。五、スカウトは礼儀正しい。六、スカウトは親切である。七、スカウトは従順である。八、スカウトは快活である。九、スカウトは質素である。十、スカウトは勇敢である。十一、スカウトは純潔である。十二、スカウトは慎み深い。

高橋君、八番目あたりから、涙声になり、ポロポロと涙が頬を伝わり始めました。

(俺は、いったい何をやってるんだ。「人の役に立つ人間になろうな」と仲間と誓ひ合つたじゃないか……それなのに、それなのに……馬鹿野郎!)
カブスカウト、ボーイスカウトの制服姿の自分の昔の写真を見て、涙が止まらなくなつたそうです。

そして、次の日からお酒をぶつとりとやめ、以来、一滴も飲んでいないそうです。
寄席のはじまる前、中入りの間に聞いた彼の話。なんだか、落語の人情噺のようでした。寄席が終わつて、帰り際、「じゃあ、また、いつか」と、素晴らしい笑顔でそう言いながら、高橋君は右手の親指と小指を合わせ、残りの三つの指を伸ばした敬礼を私にしてくれたのでした。

三遊今風豊 さんゆうてい、ほうほう
落語家(昭和20)生まれ神奈川県出身。

先代三遊亭圓楽の一番弟子三遊亭風楽に師事。
梅后流江戸芸かっぱれ師範 趣味長唄三味線。

これは有り難いことです。改めて日本人のご先祖に感謝。「秀吉は、キリシタンを追い払つたのではないか」と言う人に一言。宣教師達は神社やお寺の打ち壊しをそそのかし、娘達を奴隷として外国に売り飛ばしました。而も再三の禁止令に従わなかった。これが理由です。▼どうしても取り上げなくなる野草が、季節ごとにあります。今月のイソギク【キク科キク属】もその一つ。抜けるような青空の下、鮮やかな黄色のボンボンが固まって咲きます。海岸の岩場に好んで生えています。11月初旬に咲き始めますが、今年もいよいよを感じます。



2015.12.09 龍渉

▼立冬も過ぎて日の入りは4時半。暑い暑いといっていたのは、つい昨日のようですが、今年も後20日。『まんだら通信』も今年最後の号になりました。
相変わらず進歩も発展もない記事ばかりで、お恥ずかしい限りですが、曲がりなりにも続けられるのは、辛抱して読んでいただく皆様のお陰です。来年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。
そして、どなた様もよいお年をお迎え下さいますよう。
▼元朝護摩のご祈祷を致します。お札の初穂料は、今まで通り今年も2,000円です。除夜の鐘は大晦日11時45分ごろから。お陰様で今年は良かった、という人も、そうでもなかったという

人も、感謝の気持ちをご先祖・本尊様に届けましょう。▼日本人は、イエスさんのクリスマスを祝い、教会や神社やお寺で結婚式を挙げ、死ぬとお坊さんに葬式を頼む。何という宗教音痴かと言われます。音痴ではなく寛容と、私は思っています。縄文時代から私たちのご先祖は、大木にも川にも道端の石ころにも神が宿ると言う信仰がありますから、外から来る神様を受け入れてきましたので、宗教戦争のような経験をせず済みました。今の世界を見て分かるように、自分以外の宗教を認めないから、いがみ合いが起きます。「みんな神様」というご先祖のお陰で日本人は穏やかに過ごせま